

Hack For Japan

エンジニアだからこそできる復興への一歩

Hack
For
Japan

第49回

東北TECH道場の紹介

テクノロジーを使って復興を支援することができないか。そう考えてたどり着いた方針の1つが、東北のIT技術者の支援と、長期的な視野でITを地域に根付かせることでした。その人材育成の取り組みの1つ、東北TECH道場について紹介します。

東北の若者に プログラミングを教える

東北TECH道場^{注1}は2012年の11月に開始されました。

2011年3月の東日本大震災の後、東北の復興と発展のために多くの方が引き続き精力的に活動されています。まだ傷は癒えていない地域が多くあることも事実ですが、テクノロジーを使ってそれらの活動を支援できないか、またテクノロジーを使って頑張っている開発者の皆さんを支援できないかと考えて始められた取り組みです。

Google、ゴーガ、イトナブ石巻の協力により運営されており、Hack For Japanからは筆者が講師、および運営スタッフとして参加しています。最初は宮城県は仙台、石巻、岩手県は滝沢という3つの場所でスタートし、その後、岩手の北上と釜石、盛岡（滝沢から移動）が加わり、不定期ではありますが福島（会津若松やいわきでも開催されてきました。そして2015年9月から始まった第9期では、新たに青森県の八戸と福島県の郡山が新たな道場として加わりました。

道場という名前が示すように、座学で講義をするというよりは実際に手を動かして開発していくことを重視しており、東北各地の道場でおもにAndroidアプリの開発を進めています。当初はAndroidアプリに限らず、Web、Google Maps APIなど、さまざまな技術要素を網羅する予定だったのですが、初回にさまざまな要素を盛り込みすぎたという反省と、スマートフォンのアプリ開発は自分の持っている手元の端末でアプリが動くため成功体験を得やすいと

いう観点から、Androidでの開発に絞ることにした経緯があります。

2ヵ月から3ヵ月の期間を1つの区切りとして進めて、期の締めには成果発表会を行います。本誌発売時点では第9期が終了したところで、年が明けて2016年からは第10期が開催される予定です。この記事の時点で道場開始から3年が経過し、第1期から継続して参加してくれている道場生は今では一人でも一通り開発を進められるまでに成長してくれており、新たに道場に参加してくれた初心者も指導できるようになりました。道場というスタイルをとっていることから役回りとしては師範代と言える存在かと思います。

そんな彼らも最初はアプリ開発はもちろん初めてで、プログラミングも学校で少しやったことはあるけれども……というところからのスタートでした。そこから積極的に道場に参加して、講師から教わるだけでなく自分自身でも書籍などで技術を吸収し、期ごとにアプリをバージョンアップして機能を増やしたり完成度を高めるなど研鑽を積んだ結果です。

筆者がかかわることになったきっかけは、この連載でも毎年レポートしている石巻ハッカソンの2012年7月の第1回目で行われたIT Bootcampにて石巻工業高校の高校生たちと出会い、継続してサポートをしていきたいと考えていたところに、Hack For Japanで一緒にスタッフとして活動していたGoogleの方から講師をやらないかと声をかけていただいたことから始まりました。

それまでもコミュニティ活動などでAndroidのアプリ開発について誰かに教えることはありましたが、この道場のように継続してサポートしていくということは初めてで、道場生たちの「作ったアプリが自分のスマートフォンで動いた!」というときの

● Hack For Japan スタッフ
高橋 憲一 TAKAHASHI Kenichi
Twitter @ken1_taka

注1 <http://www.tohokutechdojo.org/>

感動がこちらにも伝わってくるような場面に何度も遭遇できるのは講師冥利につきるというものです。

ある日の石巻道場

通常、道場は月に1、2回、土曜日の13時から18時にかけて開催されます。

▶ オープニング

オープニングではお互いの状況報告を兼ねて今日やりたいことを簡単に発表します。初めて参加するという人がいる場合は自己紹介タイムも兼ねています。また、同時開催の他の道場がある場合はハングアウトで結んで情報交換をします(写真1)。

▶ 講義タイム

道場生全員に知ってほしいこと、何か新しい技術の発表などがあった場合には、30分から1時間程度の講義を行うときもあります。この日は「より良いコードの書き方」と題して、プログラムを書くにあたって気をつけるべきことを筆者が話しました。

“「アプリが動けばいい、コードの見た目のきれいさなんて関係ない……」と思っていた人は正直に手を挙げてください」という問いから始まり、“なぜきれいなコードを書く必要があるのか”ということを手30分ほどかけて説明しました。

▶ 開発タイム

時間いっぱいまで道場生はひたすらアプリの開発をします(写真2)。基本的には各自それぞれがオリ

◆ 写真1 ハングアウトで結んで他の道場とのやり取り



ジナルのアプリを開発し、詰まったりわからないことがあれば、もちろん講師が(時には一緒に悩みながら)全力でサポートします。通常、講師は1人から2人体制で、道場によっては地元のエンジニアの方がチューターとして手伝ってくれる場合もあります。初参加の道場生が多い場合は、初心者グループでそろってハンズオン課題を進める日もあります。

頑張って開発して甘いモノがほしくなったり、お腹が減ってきたという人のために、おやつのお菓子も提供されます。

▶ クロージング

クロージングではオープニングと同様にその日の成果を報告します。やったことを自分で整理して発表することで、次に向けての課題も見えてくるはずです。

▶ オンラインでのコミュニケーション

月に1、2回の開催だけで補いきれない部分は、質問があるときは道場生と講師が集まるコミュニティがGoogle+に設けてあり、そこで質問を投稿すると講師が答えてくれるようになっています。また、オンライン道場と称して、ハングアウトで東京にいる講師とつないで質問、相談を受け付けることもあります。

成果発表会

各期の最後の日には成果発表会を行っています。参加者それぞれが頑張ってきた成果を発表するので

◆ 写真2 ひたすら開発



Hack For Japan

エンジニアだからこそできる復興への一歩

が、東北の各地の道場をハングアウトで結んで行います。アプリを完成させることができた人はGoogle Playストアにアップロードして世界に向けて公開します。また、その期に完成しなかった人もできたところまでをデモし、基本的に全員が発表用のスライドを作成して次の期に向けての抱負、苦勞したところ、工夫したところなどを1人5分程度で発表します。

各回のオープニングとクロージング、そして発表会の様子は「ハングアウト オンエア」を使ってストリーミングされ、アーカイブとして動画が残されています^{注2}。よろしければご覧ください。

お楽しみ

アプリ開発は決して敷居の高いものではないのですが、1つのアプリとして公開できるところまで仕上げるにはそれなりに苦勞も伴います。しかし、頑張ってアプリを完成させた道場生には、賞や景品などのお楽しみ企画が出るときがあります。2013年の8月には、アプリを公開できた人への賞品として東京にあるGoogleの日本オフィスを見学してランチをいただき、さらにGoogleの社員の皆さんの前で自分の作ったアプリをプレゼンするという貴重な機会がありました。

道場主の役割

現在は東北各地に広がる道場ですが、道場運営において大事なことは、地元で道場主として取りまとめをしてくれる方々がいることです。会場を準備したり、時には大学や高校などを訪問して活動を紹介し参加者を募るということをしてれています。このように熱心に取り組んでいただける道場主なしには東北TECH道場は成り立ちません。

道場生たちと将来

参加してくれた人全員がAndroidのアプリ開発者

注2 <https://goo.gl/9lqkaw>

になるというわけではないと思います。アプリ開発はあくまでITの技術、プログラミングに触れるためのきっかけと捉えて、より深くAndroidの技術を探索していくのはもちろん良いですし、そこから派生して別の技術での開発、もしくはプロデューサーのような方向を目指していくというケースもあると思います。

最初はわからなくて当たり前で、小文字のエル(l)と大文字のアイ(I)を間違えて入力してビルドが通らないなど戸惑うことも多いと思いますが、少しずつ積み重ねていければ良いのです。どんなに経験を積んだエンジニアでも最初はみんな初心者だったのです。また、現在はどの道場にも東京などから講師を派遣していますが、将来的にはその地元の道場生の中から講師となる人が出てきて、地元だけで道場を回せるようになるのが最終目標です(写真3)。

講師を募集しています

プログラミングを学びたいと目を輝かせて参加してくれる道場生たちと時間を共にすることは教える側にとっても刺激になり、自分が書いたプログラムが初めて動いたときの初心にかえて新鮮な気持ちになることができると思います。東北の若者と触れ合ってみたい方、Androidのアプリ開発の腕に覚えのあるエンジニアの方はぜひとも講師として参加していただければと思います。ご興味のある方は、info_tohokutechdojo@googlegroups.com までお知らせください。SD

◆写真3 ある日の石巻道場



写真提供：イトナフ石巻

道場生によるアプリ

これまでにリリースされたアプリを最近のものからいくつか紹介します。

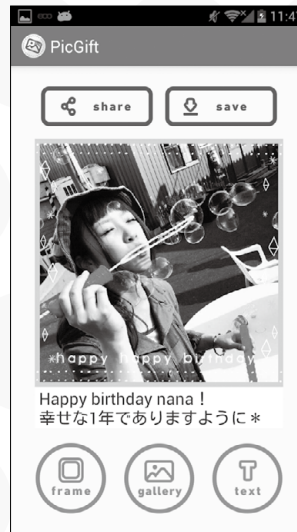
ココイコ



盛岡道場の遠藤さんが開発した、第8期の発表会で多数の賞を総なめにしたアプリです。今いる場所から近くの飲食店を探して一緒に行ってくれる人を募ることができます。住所から周辺の飲食店を検索し、Twitterでご飯の友を募集します。マテリアルデザインを取り入れてアプリの見た目にもこだわっています。



pic gift ~簡単メッセージカード作成~



石巻道場のデザイナー、太田さんが開発したアプリで、写真を“大切な人を喜ばせるためのギフトにする”というコンセプトで、写真を簡単にかわいいメッセージカードに変身させることができます。



場所メモった一よ！



石巻道場の中塩さんが開発したアプリで、ふと立ち寄ったラーメン屋など、次に来ようと思ってもなかなか来られなかったり、道を忘れてしまったりすることのないように、座標(地図)、写真、感想をそのままメモすることができます。共有機能で友人にシェアすることもできます。



橋野鉄鉱山



釜石道場にて作成されたアプリで、岩手県金石市にある世界遺産・明治日本の産業革命遺産の橋野鉄鉱山を楽しくナビゲートするアプリです。この遺産の歴史、概要などを知ることができます。

